

# 柏崎刈羽 テロ防止「最悪」

## 規制委 15カ所侵入検知不能に

東京電力柏崎刈羽原発（新潟県）でテロ防止のため核物質防護設備が複数箇所で長期間機能を喪失していた問題があり、原子力規制委員会は16日、安全確保への影響が4段階評価で最悪の「赤」とする暫定評

価を示した。テロリストの侵入など重大な事態につながりかねない状態が続いていたと判断した。規制委は1年以上かけて追加検査で根本原因などを調べる。「赤」が出たのは初めて。柏崎刈羽では、社員が

他人のIDを使って中央制御室に不正侵入していたことも1月に発覚。4段階で下から2番目の「白」と評価された。東電は今年6月の再稼働を目指していたが、地元の反発などで日程が白紙となっている。今回

の「赤」評価で、再稼働はさらに遠のいた。原発では監視カメラやセキュリティゲートなどで不正な侵入を防いでいる。だが、東電によると、柏崎刈羽では2020年3月以降、計15カ所で不正な侵入を検知できない状態が相次いで生じ、10カ所では30日以上続いていた。

東電は21年1月以降、複数回にわたり規制委に報告。当初「代替措置をとっている」などと説明していたが、休日深夜の抜き打ち検査などで確認すると、実効性が不十分だったと判明した。不正な侵入はこれまでに確認されておらず、設備はすでに復旧している。

問題の詳細はテロへの悪用を防ぐため非公表だが、更田豊志委員長は臨時会見で「代替措置は誰が見てもお粗末なもの」と言及。東電が十分と判断した根拠が「知識不足なのか、『この程度でいい』となめているのか、把握しなければならぬ」と述べ、追加検査は「極めて早く進んだとしても1年以上かかる」とした。梶山弘志経済産業相は報道陣に「深刻に受け止めている。このままでは再稼働できる段階になり」と述べた。（小坪遊、桑原紀彦）